

第10回
焼津未来創出プロジェクト創業支援制度構築事業
プロジェクトチーム会議議事録

【日 時】 平成30年8月29日（水） 14時00分～16時00分

【場 所】 焼津市役所会議室棟 203号室

【出席者】 プロジェクトチーム構成員 11名
焼津商工会議所 専務理事 岩谷 壽夫
大井川商工会 経営指導員 大石 祐輝
焼津信用金庫 地域貢献部長 稲森 智志
静岡銀行 焼津支店課長 松尾 直則
静岡福祉大学 企画情報室 室長代理 高尾 直樹
焼津市 政策企画課 課長 増井 太郎
焼津市 商業・産業政策課 課長 大石 一宏
焼津市 商業・産業政策課 企業立地支援担当 係長 小長谷 邦博
焼津市 政策企画課 地方創生室 室長 福里 紳太郎
株式会社サンロフト 社長 松田 敏孝
株式会社船井総合研究所 総務省認定地域再生 朽尾 圭亮
事務局 4名
焼津市役所 政策企画課 政策企画担当 増田 幸一郎
株式会社サンロフト 山田 尚子、鈴木 あゆみ、服部 由実 ※敬称略

【次 第】

1. あいさつ（焼津市政策企画課長）
2. 平成30年度実施事業について
3. その他

【議事録】

2 平成30年度実施事業について

【意見交換】

3-1 「市長と意欲的な経済人が産業振興について語り合う場の設置」について

（福里室長） 委員の皆様には首長の出席の調整及び候補者選定にご協力いただきたい。

（意 見） 発表者募集の告知はどのような形で実施するか。

（福里室長） 「広報やいづ」や移住定住総合支援サイト「やいづライフ」を検討している。

（意 見） 焼津商工会議所、大井川商工会や金融機関を通じた告知も実施してはどうか。応募者の想定が難しいため、昨年度のように委員の推薦も交えて候補者を募ることも考えられていたが、候補者はいるか。

（意 見） 告知方法が「広報やいづ」と「やいづライフ」では足りない。候補者にインセンティブがなければならぬ。公募のみで5社を集めることは難しい

のではないか。また、候補者は創業に限るのかどうか。市内の事業承継に関する分析報告を産業界に発信する機会として活用できないか。

- (意見) 候補者の対象のうち、市内の産業関係団体のうち、新たな展開を考えている団体に該当するのではないか。昨年度に発表したことにより連携が強化され、分析が進んでいる事例があれば非常に興味深いテーマだと考えられる。
- (大石課長) 事業承継は、事業を継続するという点において「新たな事業の発展」として捉えることができる。
- (増井課長) 募集要項の対象に関する文言を再度検討していくこととする。また、「広報やいづ」と「やいづライフ」のみでは告知としては弱い。募集の際には委員の皆様にご協力いただきたい。
- (意見) インセンティブについては、メリットがあるとよい。創業の相談を無料で受けることができるといった支援は提供できないか。
- (意見) 発表者の事業所や商品を「広報やいづ」で紹介してはどうか。
- (増井課長) 当事業の開催等について、「広報やいづ」や「市HP」などに掲載することは可能であるとする。
- (意見) 「広報やいづ」の有料広告を3か月間無料で掲載できるというインセンティブはどうか。
- (増井課長) 「やいづライフ」を活用するという方法もある。
- (意見) 昨年度に開催したときは静岡新聞に大きく掲載されたが、報道機関に取り上げられるという点もインセンティブになるのではないか。
- (増井課長) 報道機関へのプレスリリースは今年度も予定している。
- (意見) 昨年度の参加者がメリットをどのように感じられたのかを調査したい。
- (意見) オリーブをテーマとされていた参加者は販路を気にされていた。販路の開拓を実現できるような施策を支援していくことができればアピールになるのではないか。
- (大石課長) 消費者を対象とした販路か、バイヤーを対象とした販路かによって支援も異なる。
- (意見) 知名度を向上させたいというニーズがある。地域で新しい事業を展開する際に販路拡大や知名度向上させる支援を市として実施できないか。
- (大石課長) そのためには対象を明確にする必要がある。
- (意見) 創業相談の支援については、創業希望者は金融機関よりも商工会議所に相

談する方が多い。金融機関は敷居が高く感じられる傾向にある。発表者が創業相談を受けていない場合はメリットを感じてもらえるのではないかな。

(意見) 発表を機に事業案を文書化することができ、その後も活用できる点もメリットとして挙げられる。

(意見) 商品開発したものをアンテナショップで優先的に販売するなど、発表者の取り組みをアピールしていく機会はあるのではないかな。アンテナショップは開設するまで時間はかかるが、販路拡大や焼津らしさのアピール、インセンティブにつながる。

(増井課長) 募集要項の応募資格や募集をかける上でインセンティブについては再度検討していく。

3-2「既存のカフェや飲食店等を活用したビジネスの語り場の設置」について

(小長谷係長) 創業たまご塾の内容は昨年度とほぼ同じ形で進めていく。第1回創業たまご塾後にやいづみらいカフェを実施し、交流を深めることで、次回以降の創業たまご塾への参加につなげていく。

(意見) 創業たまご塾の参加人数は何名を見込んでいるか。

(小長谷係長) 会場の収容人数は最大40名。昨年度は、事前の応募人数は40名程度だったが、実際の参加者は20名前後であった。

3-7「地元企業、創業者、創業希望者、UIターン希望者、学生が交流するマッチングイベント開催」について

(意見) 県外からの参加学生をどのように集めるか。

(増井課長) 時期としては、就職活動はまだ本格化していないため、大学2～3年生の学生を対象に焼津の企業を知ってもらう機会として捉えている。大学や県のUIターン支援センターの協力を得ながら首都圏の学生を呼び込むことを考えている。

(意見) 昨年度の振り返りを踏まえて、目標や戦略をどのように立てるか。常葉大学のキャリアサポートセンターでは、学内の就職ナビにエントリーすると学内で実施されるガイダンスに参加できるという取り組みを行っている。学生と興味を持った企業とのマッチングを大学側がセッティングしている。静岡産業大学や静岡福祉大学も実施している。そうした取り組みを人材不足に悩む企業に周知させるなど、やいづビジネスミートアップを昨年度よりもよりよくするための仕組みが必要ではないかな。

(意見) 10月6日から8日まで全国公立大学学生大会が静岡県立大学で行われ、全国から学生が集まる。その宿泊場所が焼津青年の家を予定しているため、学生に焼津の魅力をアピールする機会になるのではないかな。また、やいづ応援団800名に情報発信の協力いただけないかな。やいづビジネスミートアップ

ブは、焼津の魅力を伝えるイベントに仕立てていきたい。

- (増井課長) 「やいづライフ」に掲載されている企業はインターンシップの情報も掲載している。イベント当日だけでなく、「やいづライフ」への情報掲載を活用してはどうか。フォローアップについては、参加者の就職先をどこまで追っていきけるかが課題となる。仕組みについては再度検討していくが、まずは学生に集まってもらい、焼津の企業を知ってもらうことを念頭に進めていく。
- (意見) 昨年度は直接的に就職に結びついたかどうかは追い切れていない。企業のプレゼンテーション後に実施した交流会の雰囲気は良好だったが、それらをどう成果につなげていくか。
- (増井課長) 首都圏に進学した学生はUIターンへの意識はあるが、焼津の企業情報を詳しく知らないという傾向がある。
- (大石課長) 昨年度の参加企業はどのようにして集めたか。
- (意見) 「やいづライフ」に登録されている企業に焼津商工会議所から郵送で案内を送付した。
- (意見) 案内文書を全て確認する企業ばかりではない。郵送案内に加えて、市が地方創生の一つとして取り組んでいる「やいづライフ」に力を入れてはどうか。「やいづライフ」に掲載されている企業に優先的に案内することで、やいづ応援団の増加にもつながる。
- (意見) 採用につながった人数のみを成果とするのであれば、参加者の対象を大学3年生に絞りこむ必要がある。採用だけでなく、広く焼津をアピールすることを目標とするのかを明確にしておく必要がある。
- (意見) 採用につながった人数を成果とする場合、サポート業務が必要となり数値を出すことが非常に難しい。意図を明確にし、数値を明確にする必要がある。この5年間で合同企業ガイダンスの学生参加人数は4割下がっている。参加後に会社見学につなげていくような手法や目標数値を再度検討しなくてはならない。
- (大石課長) まず焼津にどんな企業があるのか、焼津にこんなに働く場所があるということを知ってもらうことが第一段階。結果として、ゆくゆくは就職につなげることができれば最善ではないか。
- (増井課長) 目標数値の設定と県外からの学生の集客方法について検討していく。首都圏の学生だけでなく、県外出身者で現在、県内の大学に通っている学生を対象とする仕組みも検討していく。
- (意見) フォローアップの仕組みの構築が必要である。昨年度は参加者と企業同士の情報交換が進むような取組を検討していたが、実施できていなかった。学生の連絡先と興味のある企業を把握することができればフォローアップは可能なため、なるべく負担をかけず1～2回のアクションを起こせるよ

うな仕組みを構築してはどうか。

- (意見) 「やいづライフ会員」への登録を促すという手法もある。やいづライフからメルマガを通して焼津の情報を得ることができる。
- (意見) 昨年度も「やいづライフ会員」への登録を促したが、会員登録数はそれほど伸びなかった。参加申し込みと同時に会員化してしまう仕組みも構築したい。
- (意見) 当日の参加者に名刺のようなカードを配り、気になった企業に渡すという手法もある。
- (意見) その枚数で、プレゼンテーション大賞を決めるということも面白いのではないか。
- (意見) プレゼンで紹介できる企業は12社だが、その企業数に学生は満足するか。「やいづライフ」に登録している企業を紹介するなど、学生が就職して満足できるような企業があることをアピールしてはどうか。12社に絞る必要があるのか、その企業を知ることが学生にとってどのようなメリットがあるのかについて学生目線で検討していく必要がある。
- (増井課長) 今年度は会場の都合により時期やプレゼン企業数の変更はできないが、プレゼン企業数は12社としても、学生との交流に参加できる企業枠を新たに設けるなど仕組みを検討していく。

3-3 「各支援機関の情報を一元管理・共有する仕組みの構築」について

- (小長谷係長) 仕組み構築においては、市またはプロジェクトチームから依頼文を提出する必要があるという意見をいただいたため、市として依頼文と創業希望者面接カードの案を作成した。
- (増井課長) 日本政策金融公庫への依頼を想定し作成している。金融機関での活用が可能なものかどうか確認いただきたい。
- (意見) 依頼文の「支援機関の情報管理一元化の仕組み」というと対象が幅広くなるため、まずは「創業に関する情報管理の一元化」としてはどうか。
- (意見) 「創業希望者面接カードの共通利用」などシンプルな表現にする。
- (意見) 創業希望者面接カードは裏面にセミナーの受講履歴や経歴が必要。
- (意見) 金融機関としては創業希望者面接カードの裏面に反社情報を入れてもらいたい。
- (増井課長) タイトルと裏面について変更していく。

3 その他

- (増井課長) 本事業は地方創生推進交付金により実施しているもので今年度が最後となる。市としては継続していきたいと考えているため、それぞれの事業についてご意見をいただきたい。
- (大石課長) 市の産業振興に関わるものが多い。シティセールス、人手不足に対するUIターン推進に結果を反映しながら進めていきたいと考えている。
- (意見) 焼津未来創生総合戦略は第一弾であって、第二段を準備した方がよいのではないかと。5年間の総括を行い、平成31年度の時には平成32年度以降の戦略や論理に基づいた目標数値を立てられるようにする必要がある。
- (意見) 成果のたな卸しは必要。情報の一元化を進めていくことができれば素晴らしい。昨年度のやいづビジネスミーティングが現在の動きにつながってきていることは大きな成果だと考えている。直接的に発生した成果と副次的に発生した成果があるが、それをインフラレベルと事業レベルに分けて整理することで次の戦略を立ててはどうか。
- (増井課長) 首都圏の一都三県から地方にUIターンして就職・起業する方の支援策として地方創生推進交付金を支給する方針を国も固めたという流れもある。こうした情報を逃さないような形で対応していきたいと考えている。
- (意見) 藤枝市で始まったタウン紙『ふじえーら』は、広告代理店と静岡新聞社、藤枝市内の新聞販売店が組み、藤枝市内の全戸に配布している。焼津市においても、今後の「やいづライフ」と連携した『やいづライフ新聞』の制作に活かすことはできないか。『ふじえーら』のようにフルカラーの場合は広告をかなり入れていく必要はあるが、広告だけの展開は難しいと考えられる。
- (増井課長) 最終的にはWebサイトを見てもらう流れになるのか。
- (意見) 「やいづライフ」を大きな媒体としていきたい。紙媒体は、地域が狭い場合は有効だがコストがかかる。全戸配布となった場合は新聞販売店と提携する必要がある。
- (増井課長) やいづライフの周知を目的に、気軽に読めるような紙媒体をつくり、市内飲食店等に設置いただき、情報発信につなげていく。